Ｈｅａｒｔｆｕｌ　Ｄａｙ

多様性について考えてみよう！！

高校時代、自分について、生き方について考えることが多くあると思います。自分を見つめ直すなかで「自分らしく」とは？と悩むこともあるかもしれません。また、最近「多様性」という言葉をよく耳にします。そこで今回は２冊の書籍から、「自分らしさ」、「多様性」について、人権委員で学習会を行ったことを報告します。

１『ぼくのスカート』　文・絵：ピーター・ブラウン　訳・監修：日高康晴　小学館

【あらすじ】

なぜかいつも服を着ないフレッドくん。いつもはだかんぼで、自分の部屋や廊下を走り回っています。あるとき、こっそりクローゼットに入り、素敵な服を見つけました。お母さんの洋服です。

お母さんの洋服を着てお化粧もしてみます。すると

「とってもいい感じ！」

その姿を見た両親はどうするのでしょうか？

質問１　皆さんの「自分らしい」洋服はどのようなスタイルですか？

（　　）

質問２　フレッドが自分の弟なら、どのような対応をしますか？

（　　）

【人権委員　絵本を読んでのコメント】

親に認められるのは難しいところもあるけど、しっかり受け入れてもらえて良い家庭だと思う。

この本では両親が「ぼく」に合わせた気持ちで向き合ってあげたことで「ぼく」が不安を感じずにすんだ。「ぼく」の行動に対する親の対応が大切だと感じた。人にはそれぞれ考え方があり、その思いは尊重すべき。つまりその想いの違いを理解することが大切。私も常に優しい気持ちで人を受け入れたい。

人には好みがあり、「合う」、「合わない」も人それぞれ。自分に合わないことを続けて自分を壊すようなことはよくないと伝えていると感じた。自分らしくいたい。

性別に関係なく、洋服や化粧を一緒に楽しむ親との関係がすごく良い。周囲の人の環境が大切だと思う。自分の悩みを相談できる人がいるのは当たり前だとは限らない。「ぼく」は自分を出せる環境で良かった。この絵本から「多様性」の尊重について学ぶことができた。

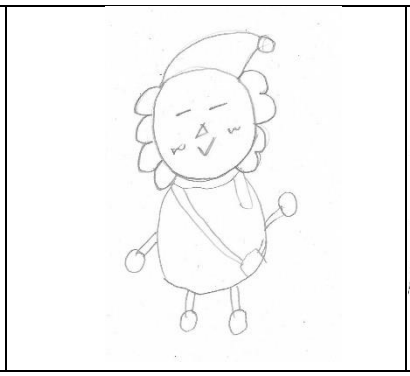
２　『サンタのおばさん』　作：東野圭吾　　画：杉田比呂美　文藝春秋

【あらすじ】

　フィンランドのある小さな村で、クリスマス前に世界中のサンタが集まって話し合うサンタクロース会議が舞台です。12 地域のサンタのうち、会長のアメリカサンタが今日で引退。彼に代わるサンタの選出をしなければなりません。そこに、新サンタ候補のジェシカが入ってきました。その時驚きのあまりひっくり返るサンタの姿が。ジェシカが女性だったからです。ここから女性サンタの是非を巡って大議論になります。さて、ジェシカは世界初の「サンタのおばさん」になれるのでしょうか？

「サンタのおばさん」と聞いて、人権委員が想像してイラストにしました。皆さんのイメージと似ていますか？

そして、「サンタのおばさん」は皆さんのなかで「あり」でしょうか？「なし」でしょうか？



【人権委員のコメント】

元々の「イメージ」はあるものだが、人を幸せにするのに性別は関係ないと気付いた。

肌の色や性別で差別されるのは、勝手にイメージ付けているのであって、いろいろなサンタがいたら良いと思った。

この絵本では「サンタのおばさん」が認められるかどうか議論されているのが良い。「固定観念」から生まれる考えは偏見や差別にもなるのだと気付いた。

サンタの集まりと聞くとわくわくしたが、私もサンタを男女で決めてしまっていた。「固定観念」をなくすことが最近よく聞く「多様性」や「SDGs」でも必要だと思った。

【人権委員…私たちの思い 】

今回、２冊の書籍から「多様性」、「自分らしさ」について考えました。 顔、体型、髪型、これらが一人ひとり異なるように、考えやし好も人それぞれです。日本人は「みんなと同じが安心」という気質の人が多いとよく言われます。これはその人の考えで悪いことではないと思います。ただ、そのことにより、他と違う自分を表現できないと苦しんでいる人がいるかもしれません。「固定観念」で人を縛り付けるのは感心できないことかもしれません。時代とともに、社会は変化します。価値観も変化します。そこから生まれる「自分らしさ」に今まで以上に「多様性」があるのは当然です。違いを認める社会(環境)、みんなが笑っていられること、「生きていることが楽しい」と思える社会が理想です。絵本のコメントにあった「あなたはあなたのままでいい」が心に残りました。

この２冊は図書室にあるので、是非読んでみてください。

担当：203、101　人権委員